

"ERIK SATIE"

EXCENTRIQUE PIANO & TALK LIVE VOL.6

～新たに発掘された資料が描く等身大のサティ像、あるいはもう一つのサティ論～
[年忘れ！ サティ放談]

柴野さつき

Piano & talk

尾島由郎

Electronics & talk

2016 11月26日(土)

開場 19:00 ※時間帯がイレギュラーです。
開演 19:30～ ご注意ください！

(2ステージ 入替なし 途中入場可) (1drink=600円～)

MC 3000 円+2drinks order

CAFE BEULMANS

お問合せ: info.cafebeulmans@gmail.com

TEL: 03-3484-0047

世田谷区成城6-16-5 カロザ成城2F

イベント日以外 営業時間

cafe time 15:00 -

bar time 19:00 -

火曜日・日曜日定休 イベント日以外

メールでのご予約の場合、必ず当日ご連絡がとれる電話番号をご記載ください。



サティにはおよそ似つかわしくない喧しきで催される数々の祝祭、しかし相変わらずの誤謬は晴れぬまま、2年に渡って繰り広げられた逝去90年と生誕150年の宴はやがて終わろうとしています。サティ演奏家の第一人者であるピアニスト柴野さつきと、一貫してアンビエントミュージックの世界を追求する音楽家・尾島由郎が密かに開く「エリック・サティ エキセントリック・ピアノ&トーク・ライブ」。毎回、エリック・サティの大胆な新解釈を披露し等身大のサティ像に迫るトーク・ライブ。第6回目の今回は、暮れゆくアニバーサリーイヤーを忍びつつ「年忘れ！ サティ放談」をお届けします。現時点で予定しているトーク内容、および演奏は、

- ・サティ・アニバーサリーイヤーを振り返って
 - ♪: 柴野さつきによる音読『ユリイカ 臨時増刊号寄稿文 ～等身大のサティを求めて』(Buchlaの電子変調付き)
- ・「エリック・サティ覚え書 新装版」への複雑な思い
 - ♪: スポーツと気晴らしより
- ・「ソクラテス」から「家具の音楽」への移行
 - ♪: ピアノとエレクトロニクスによる「ソクラテス」
- ・Dr.ロバート・オーリッジ氏との往復書簡でわかったこと
 - ♪: 「タンドルモン」と
 - 「(新たに発見された同名異曲の)タンドルモン」
 - 「ジュール・マスネ作曲: 貧しきの者の夢」
 - 「ルイ・ヴァルネイ作曲: 悲しき道化師の小さな音楽」

などなど、テーマは当日ギリギリまで追加していきますので、どうぞご期待下さい。

そして長く続いてきた「エキセントリック・ピアノ&トーク・ライブ」はいよいよ今回がシリーズ1の最終回。我が国に於いて、もっとも正当でもっとも異端なサティ研究を繰り広げる二人が、独自のサティ像を描き出します。



柴野さつき

<http://www.satsukishibano.com/>

エリック・サティをはじめとする近代/現代ピアノ音楽のスペシャリスト。桐朋学園音楽科卒業。東京音楽大学ピアノ科演奏家コースで井口愛子に師事。卒業後に渡仏し、サティの研究家であり詩人でもあるピアニスト、J.J.バルビエに師事。多数のアルバム制作やコンサートを通じ、枠にとらわれない自由な演奏活動を展開している。師バルビエと共に監修をつとめた楽譜集『エリック・サティ: ピアノ曲集』(全4冊、音楽之友社)を始めとして、楽譜『ニュー・スタンダード・ピアノ曲集: サティ ピアノ作品集』(音楽之友社)、ピアノ教則本『サティで始める大人のためのピアノ・レッスン』(リットーミュージック)を発表。最新作は、今まで前奏曲しか演奏されることのなかった未発表の大曲エリック・サティ『星たちの息子・全曲版』日本初のスタジオレコーディング盤をリリース。



尾島由郎

<http://www.yoshioojima.com/>

一貫してアンビエントミュージック/環境音の世界を追求している音楽家。代表作はSpiralのための環境音楽集『Une Collection des Chainons I & II』『HandsSome』(Spiral)、柴野さつきとのコラボレーションアルバム『Caresse』(Spiral)、『belle de nuit』(les disques des chainons)他。スパイラル(ワコールアートセンター)やリビングデザインセンターOZON、東京オペラシティ ガレリアを始めとする集客施設の環境音楽を多数制作し、サウンドデザインやサウンドシステムの開発にも関わる。定村史朗、芳垣安洋、中島ノブユキ、フェビアン・レザ・パネ、大儀見元らとノンジャンルな即興音楽のライブを多数行う。『サウンド&レコーディング・マガジン』『キーボード・マガジン』(リットーミュージック)他への執筆も数多い。